

3 各教科の問題ごとの結果分析と授業改善のポイント

(1) 国語（小学校第5学年対象）

- 1 聞き取るべき内容を自分で判断し、話の中心となる必要な情報についてメモを取りながら聞くことができる。 (1)～(3)【話す・聞く能力】 (4)【国語への関心・意欲・態度】

【問題の概要】

(1) この話し合いの場面で、はるみさんのグループが一年生に絵本をしょうかいしようと考えた理由として、最もふさわしいものはどれですか。次のアからエまでの中から一つ選び、記号で答えましょう。

ア 絵本なら一年生も大好きなので、ビデオを喜んで見てもらえると思ったから。
 イ 絵本なら八十さつもあるので、順番を待たなくても借りられると思ったから。
 ウ 図書館の絵本をしょうかいするだけならば、時間内におさまると思ったから。
 エ 図書館にある本について調べたので、本の数や種類を教えたいと思ったから。

【結果分析】

ア（正答）	イ	ウ	エ	その他	無解答
80.6%	2.6%	8.4%	8.0%	0.1%	0.4%

1(1)は、あきおくんの「絵本なら一年生も大好きだからです。」と絵本のことについて紹介する理由を発言している部分と、この発言を受けてたなつえさんとゆきやくんが続けて同意している部分に着目する。一連の話し合いのやり取りを基に、はるみさんのグループが一年生に絵本を紹介しようと考えた理由を捉えることができるかをみる問題である。正答は「ア」で、80.6%の正答率である。誤答の中で最も反応率が高いのは、「ウ」で8.4%である。この誤答の要因として、話し合いの中盤で、なつえさんが本の数を決める際に発言した「時間内で紹介できるか心配です。」の部分から判断したことによるものと考えられる。

【問題の概要】

(2) この話し合いの場面で、はるみさんのグループが決めた「かし出し数が多い人気の絵本」、「かし出し数は少ないけれど読んでほしい絵本」、「図書館に新しく買った絵本」のしょうかいかたとして、最もふさわしいものはどれですか。次のアからエまでの中から一つ選び、記号で答えましょう。

ア 時間内にしょうかいするために、それぞれ五さつ、題名をしょうかいして、すべての絵本について、おすすめの理由をしょうかいすることにした。
 イ 時間内にしょうかいするために、それぞれ五さつ、題名をしょうかいして、「かし出し数は少ないけれど読んでほしい絵本」についてだけは、おすすめの理由もしょうかいすることにした。
 ウ 時間内にしょうかいするために、それぞれ三さつ、題名をしょうかいして、「かし出し数は少ないけれど読んでほしい絵本」についてだけは、おすすめの理由もしょうかいすることにした。
 エ 時間内にしょうかいするために、「かし出し数は少ないけれど読んでほしい絵本」を三さつしょうかいして、「かし出し数が多い人気の絵本」と「図書館に新しく買った絵本」については、しょうかいしないことにした。

【結果分析】

ア	イ	ウ（正答）	エ	その他	無解答
3.5%	13.0%	62.8%	20.2%	0.1%	0.4%

1(2)は、ゆきやくんの「絵本の紹介はそれぞれ三冊にして、人気の絵本と新しく買った絵本は、

題名だけで、おすすめの理由を紹介しないというのはどうでしょうか。」の部分に着目する。また、この発言のあとの、なつえさんやあきおくんが同意している部分に着目する。一連の話合いのやり取りを基に、はるみさんのグループが決めた絵本のしょうかいのしかたを捉えることができるかをみる問題である。正答は「ウ」で、62.8%の正答率である。誤答の中で最も反応率が高いのは、「エ」で20.2%である。この誤答の要因として、ゆきやくんの発言の中にあつた「それぞれ三冊」や、「人気の絵本と新しく入った絵本は、題名だけ」紹介するといった、話の中心となる必要な情報を、聞き取るべき内容と判断し、メモを取りながら聞くことができなかつたことによるものと考えられる。

【問題の概要】

(3) はるみさんが、話し合いの中で「ゆきやくん、ちょっと待ってください。」と言った理由として、最もふさわしいものはどれですか。次のアからエまでの中から一つ選び、記号で答えましょう。

ア ゆきやくんが、前回の話し合いで決まったことについて、話をくり返そうとしていたから。

イ ゆきやくんが、司会ではないのにみんなの発言をまとめて、例を挙げて説明し始めたから。

ウ ゆきやくんが、しょうかいすることを決める前に、本の数について勝手に調べていたから。

エ ゆきやくんが、話し合っていることからそれた話を始めて、そのまま話し続けていたから。

【結果分析】

ア	イ	ウ	エ (正答)	その他	無解答
1.2%	2.0%	26.3%	70.0%	0.1%	0.4%

①(3)は、はるみさんが「ゆきやくん、ちょっと待ってください。」と言ったあとの発言に着目する。その発言の中に「今は、なつえさんが心配していた絵本の紹介の仕方について考えましょう。」という部分がある。このことから、話し合っていることからそれた話を始めて、そのまま話し続けていたことに気付くことができるかをみる問題である。正答は「エ」で、70.0%の正答率である。誤答の中で最も反応率が高いのは、「ウ」で26.3%である。ゆきやくんの「図書館には八千冊の本があると聞きました。虫の本だけでも八十冊くらいあつたんです。」と先生の話をつづけた発言を、紹介することを決める前に、本の数について勝手に調べたと判断したことによるものと考えられる。

【問題の概要】

(4) あなたがはるみさんの司会のしかたを参考にしながら司会をすとしたら、どのようなくふうをしますか。次のアからエまでの中には、ふさわしいものがいくつかありますが、あなたの考えに最も近いものを一つ選び、記号で答えましょう。

ア みんなの発言のよい点や大切な点を整理して分かりやすく説明することで、話し合いの内容をしばること。

イ みんなの発言の似ている点やちがう点をもとに新しいぎ問点を見つけ出すことで、話し合いを深めること。

ウ みんなで話していることや決めたことを一つ一つ確かめることで、すじ道を立てて話し合いを進めること。

エ みんなの発言の欠点ばかり注意して、話しにくいと思わせることで、話し合いを時間内に終わらせること。

【結果分析】(下段の「平均正答率」とは、それぞれの選択肢を選んだ児童の国語における平均正答率を表す。)

	ア (正答)	イ (正答)	ウ (正答)	エ	その他	無解答
反応率	52.0%	16.2%	28.9%	2.1%	0.3%	0.5%
平均正答率	63.0%	62.1%	67.4%	36.6%	38.0%	13.8%

1(4)は、話し合いをするときに、どのような司会の仕方があるのかについて理解できているかどうかをみる問題である。正答は「ア、イ、ウ」のいずれかで、97.1%の正答率である。誤答の要因としては、司会だったのはみさんの「ゆきやくん、ちょっと待ってください。」の部分、発言の欠点ばかり注意していると捉えてしまったことによるものと考えられる。

【授業改善のポイント】 必要な情報を聞き取り、それを基に考えをもたせる指導の充実を図る。

児童に話し合いの目的を明確に示すことで、聞き取るべき事柄を予想させたり、判断させたりすることができ、必要な情報を聞き取らせることができる。こうして、聞き取らせた情報やその他の資料を関連付けることを通して、自分の考えをもたせるよう指導することが大切である。

<指導事例>

学習場面 一年生に学校のどのようなことを紹介するか、グループで話し合っている場面

目的を明確にする。
○聞き取るべきことは何かを考えさせるために、目的を明確に示す。

一年生に学校のことをもっと知ってもらいたいな。

「一年生に学校のことを紹介する」という目的を明確にし、「紹介することを何にするのか」や、「どのように紹介するか」について、「一年生」という相手に応じて考えながら話し合えるとよいですね。

聞き取るべき事柄を予想させたり、判断させたりする。
○「何を」「いくつ」「どのように」紹介するかなど、聞き取るべき内容を判断し、話の中心となる必要な情報についてメモを取りながら聞くように指導する。

たくさん紹介したいけれど、時間も限られているし…どうしよう。

紹介したいことをもっとしぼらないといけないね。

では、絵本の種類や数、おすすめの理由等、どのように紹介するのか、もう少し話し合しましょう。

話し合いをするときに気を付けることよいことを理解させる。
○話し合いの目的を果たすために必要な条件を一つ一つ確認して、話し合いの筋道から逸れないよう指導する。

時間内に紹介できるように、まず、「どんな絵本を紹介するのか」を決めて、次に「何冊ずつ紹介するのか」を決めよう。

そうね。おすすめの理由などを、どのように紹介するのかについては、最後に話し合しましょう。

今回の話し合いの活動を通して、「目的や相手に応じて、紹介することを決めること」や、「目的や相手に応じてどのように紹介するのか選択すること」、「条件を確認しながら話し合うこと」という力を身に付けさせることができます。指導する際には児童にどのような力を、どのような活動を通して身に付けさせるのか、明確にしておく必要があります。また、児童がそのことを理解した上で活動して、最後に身に付けたことを自覚できるような授業にすることも大切です。

2 第4学年までに配当されている漢字を文脈に即して正しく読むことができる。

【言語についての知識・理解・技能】

【問題の概要】

次の(1)と(2)の _____ をつけた漢字の読みをひらがなで書きましょう。

- (1) 新しい方法を試みる。
- (2) しゅうかくしたさつまいもを平等に分ける。

【結果分析】

(1)

「ころ」(正答)	「し」	「して」	その他	判読不可能	無解答
82.3%	1.0%	0.4%	10.7%	0.3%	5.4%

②(1)は、「試」という漢字を文脈に即して正しく読むことができるかをみる問題である。「試」は第4学年の配当漢字である。正答は「こころ」で、82.3%の正答率である。誤答の要因として、「試」を音読み(「シ」と間違えてしまったり、「して」のように文の意味から読みを推測してしまったりすることが考えられる。

(2)

「びょうどう」(正答)	「へいとう」	「へいどう」	その他	判読不可能	無解答
73.1%	11.2%	0.6%	12.5%	0.2%	2.5%

②(2)は、「平等」という漢字を文脈に即して正しく読むことができるかをみる問題である。「平」と「等」は第3学年の配当漢字である。正答は「びょうどう」で、73.1%の正答率である。誤答の中で最も反応率が高いのは、「へいとう」で11.2%である。この誤答の要因としては、「平」という漢字を使った「公平(こうへい)」「平和(へいわ)」などの言葉から、「へいとう」と間違えることが考えられる。「へい」と読む機会は多いが、「びょう」と読む機会は少ないため、日常会話の中でよく使用される言葉であるが、漢字とその読み方が関連付いていないことによるものと考えられる。

【授業改善のポイント】 日常の様々な学習活動を利用し、漢字の読みの定着を図る。

日常会話でよく使用される言葉であるにもかかわらず、(2)「平等」の読みの正答率が8割を下回る要因としては、児童の生活の中で書く機会が少ないことが考えられる。このような漢字については、他の教科等の学習で書く機会を意図的に増やすとともに、熟語や例文を教室に掲示して、日常的に目に触れるような工夫に努め、読みの定着を図る必要がある。

③ 第3学年までに配当されている漢字を文脈に即して正しく書くことができる。

【言語についての知識・理解・技能】

【問題の概要】

次の(1)と(2)の _____ をつけたカタカナの部分にあたる漢字を書きましょう。

(1) 朝、台所で水をノむ。

(2) いとこからショチュウ見まいのはがきがとどいた。

【結果分析】

(1)

「飲」(正答)	「へん」が一画多かったり、「つくり」が「あくび」ではなく「ぼくづくり」になっていたりしている。	その他	判読不可能	無解答
81.4%	9.6%	2.0%	1.0%	6.0%

③(1)は、「飲」という漢字を文脈に即して正しく書くことができるかをみる問題である。「飲」は第3学年の配当漢字である。正答は「飲」で、81.4%の正答率である。誤答の要因として、漢字を構成するそれぞれの部分について、正確に理解していないことが考えられる。

(2)

「暑中」(正答)	「暑」の書きはできている	「中」の書きはできている	「暑」も「中」も間違っている	その他	判読不可能	無解答
53.0%	2.2%	19.3%	3.6%	6.3%	0.4%	15.2%

③(2)は、「暑中」という漢字を文脈に即して正しく書くことができるかをみる問題である。「暑」は第3学年の、「中」は第1学年の配当漢字である。正答は「暑中」で、53.0%の正答率である。誤答の要因として、「暑」の意味や訓読みについては理解しているが、音読みについては正確に理解していないことや「暑中」という熟語についての意味の理解が不足していることなどが考えられる。

【授業改善のポイント】 多様な学び方ができるよう指導の充実を図る。

画数が多く、一画多かったり少なかったりするなどの誤答が見られたり、似ている部首と間違えたりする漢字は、画数を声に出して書きながら練習したり、部首や組み立てを意識して確認しながら書いて練習したりすることが大切である。漢字を覚えるときに、書き順を基に覚えるのが得意な児童、構成する部分の部首や組み立てを考えながら覚えるのが得意な児童など、個に応じて多様な学び方ができるよう指導の充実を図ることが必要である。

4 目的や意図をもって二つの資料を読み、筆者の思いを理解・解釈してまとめの文を書く。

ゆうきくんの学級では、自分が関心をもったことについて調べて、学級のみんなに発表することになりました。ゆうきくんは、虫の鳴き声について調べたいと思い、【資料A】と【資料B】の二つの資料を見つけました。あとの(1)から(3)までの各問題に答えましょう。

(1) 【資料A】の文章から、虫が鳴く気温の条件や、虫の鳴き方についての情報を正確に取り出すことができる。 **【必要な情報を正確に取り出す力】**

【問題の概要】

ゆうきくんは、【資料A】を読んで、コオロギたちの鳴き声について分かったことを整理しています。次の①から⑤までに当てはまる言葉を本文中からぬき出して答えましょう。

- ・ 虫は、気温によって体温が変わる①動物であり、気温によって②が活発になったり、にぶくなったりする。
- ・ コオロギたちは、気温が③度くらいではテンポが早く活発に鳴く。
- ・ コオロギたちの鳴き声が最もきれいに聞こえる気温は、④度から⑤度くらいといわれている。

【結果分析】

①から⑤まで完答（正答）	①、②の言葉は書くことができているが、③、④、⑤の数値のいずれか又は全てが間違っ解決している	③、④、⑤の数値は書くことができているが、①、②の言葉のいずれか又は両方が間違っ解決している	その他	無解答
83.4%	7.1%	5.4%	3.1%	1.0%

4(1)は、【資料A】の2、4、5段落に着目する。2段落の「変温動物について」、4段落の「コオロギたちが活発に鳴く気温の条件について」、5段落の「鳴き声が最もきれいに聞こえる気温の条件について」の記述を基に、【資料A】を整理することができるかをみる問題である。正答は、①「変温」、②「活動」、③「三十」、④「二十二」、⑤「二十六」（完答）で、83.4%の正答率である。誤答の要因として、【資料A】の文章全体から変温動物や気温についての複数の情報を正確に取り出すことができなかつたことによるものと考えられる。

(2) 【資料A】と【資料B】の二つの資料の内容を比較・関連付けて読み取ることができる。

【比較・関連付けて読み取る力】

【問題の概要】

ゆうきくんは、【資料A】と【資料B】を結びつけて、分かったことを整理しています。昨年のC地区の九月十二日のコオロギたちの鳴き方で考えられることとして、最もふさわしいものはどれですか。次のアからエまでの中から一つ選び、記号で答えましょう。

- ア 午前十時から午後一時までにかけては、コオロギたちの鳴き声のテンポがおそくなっていたと考えられる。
- イ 午後二時から午後九時までにかけては、コオロギたちの鳴き声のテンポが早くなっていたと考えられる。

ウ 午前九時までと、午後六時から、コオロギたちの鳴き声が最もきれいに聞こえていたと考えられる。

エ 午前九時までと、午後六時から、コオロギたちの鳴き声が弱く、ほとんど聞こえなかったと考えられる。

【結果分析】

ア	イ	ウ (正答)	エ	その他	無解答
8.7%	16.0%	64.7%	8.5%	0.2%	1.9%

4 (2)は、昨年のC地区の九月十二日のコオロギたちの鳴き方で考えられることについて、【資料A】と【資料B】の二つの資料の内容を比較・関連付けて読み取ることができるかをみる問題である。正答は、「ウ」で64.7%の正答率である。【資料A】からは、コオロギたちの鳴き声と気温との関係が分かる。【資料B】からは、C地区の1日の気温の変化が分かる。二つの資料を正しく関連付けることで正答「ウ」を導くことができる。誤答の中で最も反応率が高いのは、「イ」で16.0%である。この誤答の要因として、【資料A】のコオロギたちの鳴き声のテンポが早くなる気温の条件についての情報と【資料B】のグラフを関連付けて読み取ることができなかったことによるものと考えられる。

(3) 【資料A】と【資料B】の内容を理解・解釈して、ゆうきくんが目的に応じてまとめた文章を考えることができる。 【意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力】

【問題の概要】

次の文章は、ゆうきくんが【資料A】と【資料B】の二つの資料から分かったことをもとに、自分の考えをまとめたものの一部です。□の部分に入る内容として、最もふさわしいものはどれですか。あとのアからエまでの中から一つ選び、記号で答えましょう。

わたしたちは、秋になるとコオロギたちが鳴くようになっていますが、実はそう単
じゅんなことではなく、気温が下がることで、コオロギが鳴くようになるのです。このこと
を考えると、□
虫たちの鳴き声は、きれいなだけでなく、多くのことをわたしたちに教えてくれているの
もしれません。

ア 虫たちの鳴き声を注意して聞くことで、今の気温が何度くらいなのかが分かるのです。それは、わたしたちに季節の移り変わりを知らせてくれるということにもつながっています。

イ セミは夏になると気温の上がる昼ごろに活発に鳴くことが分かります。このことは、虫たちの鳴き方によって、時こくが分かると言いかえることができます。

ウ 秋になればコオロギが鳴き出すというわたしたちの考えは、まちがっているということが分かります。つまり、虫たちは気温が【資料B】のように変化する日でなければ鳴かないのです。

エ わたしたちも、夏から秋になって気温が下がると、コオロギと同じく活動が活発になる理由が分かります。さらに、わたしたちと虫たちに共通する生き物の特ちょうも分かります。

【結果分析】

ア (正答)	イ	ウ	エ	その他	無解答
66.9%	6.9%	13.8%	10.2%	0.3%	1.9%

4 (3)は、二つの資料から分かることをまとめた文章を考えることができるかをみる問題である。正答は「ア」で、66.9%の正答率である。【資料A】からは、コオロギたちの鳴き声と気温との関係が分かる。【資料B】からは、C地区の1日の気温の変化が分かる。二つの資料を比較・関連付け

ることで昨年の九月十二日のコオロギたちの鳴き方について考えた。

このことから、虫たちの鳴き声を注意して聞くことで、その鳴き方から今の気温が何度くらいなのかということが分かることや、その時の時間帯を想像することができると考えられ、正答を導くことができる。誤答の中で最も反応率が高いのは、「ウ」で 13.8 %である。この誤答の要因として、「コオロギたちが活発に鳴く気温の条件」や「コオロギたちの鳴き声がかっこよく聞こえる気温の条件」についての情報を【資料B】のように気温が変化する日と誤って読み取ったことによるものと考えられる。

【授業改善のポイント】 目的や意図をもって複数の資料を読み、内容を関連付けながら筆者の思いを理解・解釈した上で、自分の目的に合うようにまとめ直す指導を図る。

ある目的や意図をもって複数の資料（グラフ等も含む）を読むことで、筆者の考えを深く理解することができるとともに、自分の考えを広げたり深めたりできるようになる。目的に応じて複数の資料を読む中で、観点を明確にして関連付けられるかを考えるように指導することが大切である。

<指導事例>

学習場面 「虫の鳴き声」について、関係のある資料を調べてまとめている場面	
資料を読む目的を明確にさせ、そのために必要な情報を取り出す。 ○「なんのために」、「何を」、「だれに」、「どのように」などの視点から目的を明確にさせる。	<p>ぼくは、虫の鳴き声について調べたいと思いました。夏休みの終わり頃になると虫の鳴き声は聞こえてくるが、虫はどういう条件になると鳴き始めるのかな。調べて分かったことをまとめてクラスの友達に発表したいです。</p> <p>目的に応じて文章を要約したり複数の情報を関連付けたりして、理解を深めることが大切です。</p>
複数の資料を読み、内容を関連付ける。 ○共通する内容について他の資料ではどのように書かれているかを比べよう指導する。	<p>虫が鳴く条件は分かったけれど、ぼくたちが住むC地区では、どのように鳴くのかな。昨日は、虫の鳴き声がよく聞こえたので、昨日の気温のグラフを基に考えてみよう。</p>
<p>観点を決めて、何と何とを関連付けるのかを明確にすることは、とても大切なことです。虫の鳴き方という観点で、虫が鳴く気温の条件と、一日の気温の変化の様子とを関連付けて資料を読み取ることで、C地区の一日の虫の鳴き方の様子の変化が見えてきます。</p>	
目的に合うように、【資料A】と【資料B】に書いてあることをまとめた文章を書く。 ○二つの資料を読み、比較・関連させて気付いたことや分かったこと、考えたことを書くように指導する。	<p>二つの資料から読み取った事実に自分なりの理由付けをして、根拠とします。その根拠を基に、自分の意見を述べると、説得力のある文章を書くことができます。今回は、「虫の鳴き声がかっこよく聞こえる気温についての情報」（事実）と「温度計がなくても虫の鳴き方によって気温が分かる」（理由付け）を合わせて根拠として、「虫の鳴き声は、季節の移り変わりを知らせてくれる」という意見を述べることができましたね。</p>

5 (1) 叙述をもとに場面の様子を正確に読み取ることができる。

【読む能力】

【問題の概要】

この場面の説明として、最もふさわしいものはどれですか。次のアからエまでの中から一つ選び、記号で答えましょう。

ア 加奈子が咲子とあまりにきれいに咲くレンゲの花を見て、いけないと知りながら田んぼに入っていたずらをしている。

- イ 加奈子が咲子といっしょにレンゲの咲いた咲子の家の田んぼに入って、春のおとずれを感じながら楽しく遊んでいる。
- ウ 加奈子が咲子の家の田んぼで、春のおとずれとともにレンゲを植えて、田植えの準備をするのを楽しく手伝っている。
- エ 加奈子がピンク色に染まる春の田んぼの中で、咲子といっしょにレンゲの草かんむりをつくって遊んだ夢を見ている。

【結果分析】

ア	イ (正答)	ウ	エ	その他	無解答
7.4%	66.2%	9.4%	15.6%	0.1%	1.4%

⑤(1)は、叙述をもとに場面の様子を正確に読み取ることができるかをみる問題である。正答は「イ」で、66.2%の正答率である。誤答の中で最も反応率が高いのは、「エ」で15.6%である。この誤答の要因として、遊んだ夢を見ているという記述はないため、日常の一場面を切り取って描かれた展開の起伏の少ない文章全体を正しく読み取れなかったことや「夢の世界」という言葉を見て解答したことによるものと考えられる。

(2) 叙述をもとに「加奈子」の気持ちを正確に読み取ることができる。

【読む能力】

【問題の概要】

①「うん……。」とありますが、このときの加奈子の気持ちとして、最もふさわしいものはどれですか。次のアからエまでの中から一つ選び、記号で答えましょう。

- ア 初めて田んぼに下りたため、田んぼの中のどこをどのように歩けばよいのか分からず、とまどっている。
- イ いくら友達の家でも、すでに稲が植えてある所に足あとはつけられないとえんりよしている。
- ウ レンゲのあまりのきれいさに感動して、うれしくて地面に足をつけていられないほど心がおどっている。
- エ ピンク色に染まるレンゲのきれいさや、それを植えた理由を聞いて、レンゲを踏むのをためらっている。

【結果分析】

ア	イ	ウ	エ (正答)	その他	無解答
9.5%	19.6%	7.2%	62.1%	0.1%	1.6%

⑤(2)は、叙述をもとに「加奈子」の気持ちを正確に読み取ることができるかをみる問題である。正答は「エ」で、62.1%の正答率である。本文の叙述に着目すると、4行目「夢の世界に来たみたい。」や、11行目「土が、おいしく?」、12行目「うん、栄養たっぷりになって、～それに、きれいやし。」、15行目「うん。」等から、加奈子が、ピンク色に染まるレンゲや、それを植えた理由に感心している様子を読み取ることができる。また、24行目「そういつてもらったものやはり気になるので」とレンゲを踏むのをためらっている様子を読み取ることができることから、正答を導くことができる。誤答の中で最も反応率が高いのは、「イ」で19.6%である。この誤答の要因として、田んぼに植えてあるレンゲを稲と思い込み、読み誤ったことによるものと考えられる。

(3) 叙述をもとに「加奈子」が叱られた気がしなかった理由を読み取ることができる。【読む能力】

【問題の概要】

②今叱られたばかりなのに、なんだか叱られた気が全然なくて」とありますが、加奈子が、叱られた気がしなかった理由として、最もふさわしいものはどれですか。次のアからエまでの中から一つ選び、記号で答えましょう。

- ア おじさんのゆく手に広がる春を感じる景色を見ていると、気持ちがふんわりとして、夢の世界にいるように思えたから。
- イ 田んぼのレンゲの花を見ると、咲子と遊んだときの楽しさを思い出して、叱られたことをすっかりわすれてしまったから。
- ウ 山の向こうに広がる空を見ながら落ち着いて考えても、叱られた理由がさっぱり分からなくて、反省できなかつたから。
- エ おじさんが自転車で遠ざかっていくのを見て、もうきゃはきゃは笑っても叱られることはないだろうと安心したから。

【結果分析】

ア (正答)	イ	ウ	エ	その他	無解答
68.8%	14.8%	9.3%	5.1%	0.1%	2.0%

5(3)は、叙述をもとに「加奈子」が叱られた気がしなかつた理由を読み取ることができるかをみる問題である。正答は「ア」で、68.8%の正答率である。誤答の中で最も反応率が高いのは、「イ」で14.8%である。この誤答の要因として、38行目「さあ……知らない……」を「すっかりわすれてしまった」と捉えてしまったことによるものと考えられる。

【授業改善のポイント】 言語活動を通してどのような資質・能力を身に付けさせようとしているのか、指導のねらいを明確にする。

指導事例1 「読むこと」の領域における基礎的・基本的な知識・技能の育成を目的とする言語活動の充実を図る場合



【物語を読んで、内容を要約する力を身に付けさせる場合】

物語においては、まず「いつ」、「どこで」、「だれが」、「何をしている」などの場面設定を正確に捉えさせる。次に、叙述を基にして登場人物の性格や気持ちを想像させる。特に、登場人物がどのような出来事をきっかけとして、どのように気持ちが移り変わっていくのかを捉えさせる。その際、直接的な描写だけでなく、登場人物相互の関係に基づいた行動や会話、情景などを通して暗示的に表現されている部分にも注意して捉えさせることが大切である。これらの情報を、総合的に整理して内容を要約できるようにさせることが大切である。

特に「読むこと」については、従来より課題と指摘されていた「登場人物についての描写や心情、人物相互の関係をとらえること」については、*日常の一場面を切り取って描くなど、展開の起伏の少ない物語等において、登場人物相互の関係を物語全体の展開から捉えて読む等に依然として課題があることが考えられるため、文章全体を整理して内容を要約するなどの指導の工夫が必要である。

* 「小学校学習指導要領実施状況調査（国語）」（平成27年2月 国立教育政策研究所）

<指導事例1>

学習場面 文学的な文章について、叙述を基に想像して読む場面				
<p>場面設定を正確に捉えさせる。</p> <p>○授業の導入において、場面設定を捉えさせるために、具体的な視点を示し、確認する。</p>				
<p>このお話は、「いつ」、「どこで」、「だれが」、「何をしている」のかな。表などに整理してみよう。</p> 				
<p>表を使って整理すると分かりやすいな。</p> 				
いつ	どこで	だれが	何をしている	
春	稲を刈り取ったあとの咲子の家の田んぼ	加奈子と咲子 (中心人物)	レンゲが咲いた田んぼに入って、春のおとずれを感じながら楽しく遊んでいる。	




指導事例2 「読むこと」の領域における基礎的・基本的な知識・技能を手段として活用して、思考力・判断力・表現力等を育成するとともに、基礎的・基本的な知識・技能を更に定着させることを目的とする言語活動の充実を図る場合

〔物語を読んだことを基に、自分の考えを表現させる場合〕

物語を読み、感想を話す（又は感想文を書く）という言語活動は度々行われている。活動のねらいは、「読むこと」の「自分の考えの形成及び交流に関する指導事項」に示されており、高学年では、「本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすること」ができるように指導することが求められる。

このような指導では、これまで「読むこと」の領域で学んできた「物語の展開や場面の役割を読むこと」や、「表現の工夫に気付き、その効果について考えること」といった基礎的・基本的な知識・技能を活用して物語を読み、自分の感想や考えをもち、話したり書いたりする活動を通して、「読んだことを基に自分の感想や考えをもち、表現する」力を育成することが大切である。このことは、「読むこと」の領域で学んできた基礎的・基本的な知識・技能を更に定着させることにもつながる。

<指導事例2>

<p>学習場面 物語を読んで、心を揺さぶられた場面について紹介する場面</p>		
<p>登場人物の行動の意図を話の展開や行動から捉えさせる。 ○文章全体の中の発言の位置付けや、直前・直後の叙述を手がかりにして読み取るように指導する。</p>	<p>加奈子は、どうして今叱られたばかりなのに、なんだか叱られた気が全然しなかったんだろう。 なんとなく気持ちは分かるけれど</p> 	
<p>加奈子がどうしてそのような気持ちになったのか、複数の叙述を関連させて考えてみましょう。</p> 	<p>活動の様子</p> <p>「低い山が連なる様子」、「淡い水色の空」、「あざやかなピンク色の田んぼ」、「景色ぜんぶがふんわり昼寝をしているように思えた。」、「夢の世界に来たみたい。」等の叙述から、加奈子は、春を感じる景色の中で、気持ちもふんわりとして、夢の世界にいるように思えたのだと思います。</p>	<p>学習したこと</p> <p>これまでに学んだ「物語の展開や場面の役割を読むこと」や、「表現の工夫に気付き、その効果について考えること」を思い出して、一つ一つの叙述を丁寧に読み返し、関連させることで、自分の感想や考えをもつことができるようになりました。</p> 

6 さえこさんの学級では、遠足で行った「さくら山公園」の中のおすすめの場所について、四年生にしようかいすることにしました。【遠足中のメモ】や、遠足からもどったあとに調べた【インターネットの情報】をもとに書いた【下書きの一部】を読んで、あとの(1)から(3)までの各問題に答えましょう。

(1) 相手や目的に応じて書きたいことが適切に伝わるように書くことができる。 【書く能力】

【問題の概要】

さえこさんは、【遠足中のメモ】と【インターネットの情報】をもとに、Aの部分を書こうとしています。Aの部分に入る内容として最もふさわしいものを、次のアからエまでの中から一つ選び、記号で答えましょう。

ア 「さくら山公園」への遠足は、五年生の五月に行くので、自由時間には園内をグループで自由に歩いて回ることができます。

イ こいのぼり祭りは、子どもたちの元気な成長を願って始められたので、「こども広場」で開かれているのだと思います。

ウ ハスは、七月から八月にさく花なので、今回の遠足では見られませんでした。ぜひもう一度行って、見てみたいと思います。

エ つり橋の上は、さわやかな風を感じながら、きれいな花をながめることができるので、特におすすめしたい場所の一つです。

【結果分析】

ア	イ (正答)	ウ	エ	その他	無解答
7.8%	75.8%	6.4%	7.1%	0.1%	2.8%

⑥(1)は、相手や目的に応じて書きたいことが伝わるように書くことができるかをみる問題である。正答は「イ」で、75.8%の正答率である。誤答の中で最も反応率が高いのは、「ア」で7.8%である。この誤答の要因として、【下書きの一部】の第1段落の内容を繰り返していることに気が付かなかつたことによるものと考えられる。また、Aの部分を含む第2段落が「こいのぼり祭り」についてひとまとまりの内容を構成していることへの理解が十分ではなかったと考えられる。

(2) 文末表現の使い方に注意して文章を読み返し、よりよい表現に書き直すことができる。

【書く能力】

【問題の概要】

さえこさんは、【インターネットの情報】と、それをもとに書いた【下書きの一部】との関係に気をつけて見直し、____部の文を次の [] のように【インターネットの情報】を活用したものであることが分かるように書き直そうとしています。次の [B] と [C] に入る言葉の組み合わせとして最もふさわしいものを、あとのアからエまでの中から一つ選び、記号で答えましょう。

- ・ インターネットで調べたところ、これは今年で十年目をむかえるこいのぼり祭り [B] 。
- ・ ハスは、白色やピンク色のきれいな花が [C] 。

- | | |
|-----------|-----------|
| ア B ですか | C さきですか |
| イ B でした | C さいていました |
| ウ B である | C さいている |
| エ B だそうです | C さくそうです |

【結果分析】

ア	イ	ウ	エ (正答)	その他	無解答
1.0%	18.4%	6.1%	69.6%	1.4%	3.6%

⑥(2)は、書きたいことが正しく伝わるように書けているかを確かめることができるかをみる問題であり、ここでは、特に「書くこと」の指導の過程である推敲の段階で、引用したことが分かるように文末表現を工夫することができているかを確かめる問題である。正答は「エ」で、69.6%の正答率である。誤答の中で最も反応率が高いのは、「イ」で、18.4%である。この誤答の要因として、調べたのが過去であること、また、インターネットを活用したものであるにもかかわらず、実際に見たこととして、Cの部分の文末を過去の事実を表す表現にしてしまったことによるものと考えられる。

(3) 体験の記録を見直すときに気を付けることが身に付いている。【国語への関心・意欲・態度】

【問題の概要】

あなたが、遠足での体験を四年生へ伝える文章を書くとしたら、どのようなことに気をつけて書きたいと思いますか。次のアからエまでの中にはふさわしいものがありますが、あなたの考えに最も近いものを一つ選び、記号で答えましょう。

- ア ほかの人の体験をそのまま自分が体験したこととして書くこと。
- イ 遠足の中で自分たちが体験したことやその時の感想を書くこと。

- ウ 伝える相手や目的に合わせて、言葉を選んでくわしく書くこと。
- エ おすすめの場所に行くよう、よびかける言葉を入れて書くこと。

【結果分析】(下段の「平均正答率」とは、それぞれの選択肢を選んだ児童の国語における平均正答率を表す。)

	ア	イ(正答)	ウ(正答)	エ(正答)	その他	無解答
反応率	3.6%	46.9%	30.3%	14.8%	0.3%	4.1%
平均正答率	46.0%	66.2%	67.4%	59.3%	40.5%	30.5%

6(3)は、自分が経験したことを相手や目的に応じて工夫して書くときに、気を付けることが身に付いているかをみる問題である。正答は「イ、ウ、エ」のいずれかで、92.0%の正答率である。誤答の要因として、「自分が経験したことを相手や目的に応じて工夫して書く」という学習の目的からそれてしまっている。実感の伴わない他の人の経験を、自分が経験したこととしてそのまま書くことは、学習の目的から外れているという理解が十分でなかったことによるものと考えられる。

【授業改善のポイント】 相手や目的に応じて書きたいことが伝わるように書く指導の充実を図る。

相手や目的に応じて、根拠の示し方を工夫し、自分の主張に説得力をもたせて書くという言語活動を行う際は、「読むこと」との関連を図ることが重要である。例えば、本や文章などから必要な語句や文を引用したり、図表やグラフ、絵や写真等と関連付けたりして、資料に示された事実に自分なりの理由付けをして根拠を挙げる等が考えられる。このように、読むことを通して学んだ説得力をもたせる表現の仕方を思い出して書くことができるように指導の工夫を図ることが大切である。

<指導事例>


学習場面 4年生に紹介文を書いている場面

紹介文を読むことを通して学んだ、紹介文の基本的な特徴を整理して確認する。


- 何について紹介しているのかを明確に示すようにする。
- 体験したことや実際に調べたことを例として挙げる。
- 読み手に具体的なイメージをもたせるため、具体的な数値、絵、写真などを用いる。

など

私は、5年生の「遠足」のことについて4年生に紹介したいと思います。でも、どのように書けばいいか悩んでいます。何をどのように書くか、どのような文章の構成にしようかな……



そうですね。新聞の読み方で学習したことを思い出して、自分が紹介したいことの軽重を考えたり、4年生が興味をもって読めるように体験したことを書いたりするといった工夫をしてみましょう。自分が体験して面白かったことを書くのもいいですね。また、その時の写真を示して、関連付けて書くのもよいですね。



7 文の中における主語と述語の関係について理解できている。【言語についての知識・理解・技能】

【問題の概要】

次の文の主語にあたる部分とじゅつ語にあたる部分を、次のアからカまでの中からそれぞれ一つ選び、記号で答えましょう。

わたしたちの 小学校は あの 川の 向こうに ある。

ア イ ウ エ オ カ

【結果分析】

・主語にあたる部分

ア	イ(正答)	ウ	エ	オ	カ	その他	無解答
22.4%	57.7%	1.5%	1.1%	1.9%	0.5%	9.8%	5.1%

・述語にあたる部分

ア	イ	ウ	エ	オ	カ(正答)	その他	無解答
2.0%	5.3%	4.0%	7.4%	18.1%	48.1%	9.7%	5.4%

・完答について

「主語にあたる部分」をイ、「述語にあたる部分」をカと解答している。(完答)	「主語にあたる部分」をイ、「述語にあたる部分」をカ以外と解答している。	「主語にあたる部分」をイ以外、「述語にあたる部分」をカと解答している。	その他	無解答
39.3%	18.4%	8.8%	28.5%	5.0%

7 (1)は、主語と述語の関係について理解しているかをみる問題である。本問は、主語と述語を同時にみている。本問の正答は、主語が「イ」、述語が「カ」(完答)で、39.3%の正答率である。

主語にあたる部分の誤答で最も反応率が高いのは、「ア」で22.4%である。この誤答の要因として、主語は人物であるという思い込みや、主語としてよく使われる「わたし」という言葉があること、「わたし」という言葉が文頭にあることといった理由から選んだことによるものと考えられる。

また、述語にあたる部分の誤答で最も反応率が高いのは、「オ」で18.1%である。この誤答の要因として、「小学校は」あの川のどこにあるかについて着目したことによるものと考えられる。

誤答の中で最も反応率が高いのは、「主語にあたる部分」をイ、「述語にあたる部分」をカ以外と解答しているもので18.4%である。主語にあたる部分を理解していても、それに対応している述語にあたる部分「ある」が述語になることへの理解が不足していることによるものと考えられる。

【授業改善のポイント】 主語と述語に関する段階的な指導の充実を図る。

主語と述語の意味や関係の指導は、児童の実態に応じて段階的な指導を行うことが効果的であると考えられる。

<指導事例>


学習場面 主語と述語に関する段階的な指導をする場面

例文を読むことを通して、文の基本的な構成を確認する。


- ① 教師が主語を規定して、述語を問う。
- ② 述語を規定して、主語を問う。
- ③ 主語と述語を問う。

物語や説明文の一節を選んで取り上げて、例文にすることもできます。また、友達が書いた文を主語と述語に着目して確かめるという活動もできます。

例文：わたしの友達が、学芸会に向けて一生懸命に練習している。




友達は、どうしていますか。




練習しています。だから、述語は「練習している。」です。

① 主語と述語との関係についての指導では、まず主語にあたる部分を示してから述語にあたる部分を問うことが大切である。なぜなら、日本語は主語が省略されたり、文頭になかったりすることがあるので、主語が捉えにくい場合があるからである。

例文：ぼくの妹が、公園で友達と遊んでいる。




友達と遊んでいるのは誰ですか。




妹です。だから、主語は「妹は」です。

② 次に、述語にあたる部分を示してから主語にあたる部分を考えさせ、主語と述語との関係について捉えさせる。

例文：翌日の昼近く、じいさんはむねをわくわくさせながら、ぬま地に行きました。



だれが、どうしていますか。



「じいさんが、行きました。」

③ 述語にあたる部分を探してから主語にあたる部分を探すと主語と述語との関係が捉えやすい。

8 文の中における修飾と被修飾との関係について理解している。【言語についての知識・理解・技能】

【問題の概要】

次の(1)と(2)について、_____をつけた言葉がくわしく説明している部分を、あとのアからエまでの中からそれぞれ一つ選び、記号で答えましょう。

- (1) 白い船が青い海を進んでいる。
 ア 白い イ 船が ウ 海を エ 進んでいる
- (2) わたしは、問題を速く正かくにといた。
 ア わたしは イ 問題を ウ 正かくに エ といた

【結果分析】

(1)

ア	イ	ウ (正答)	エ	その他	無解答
5.1%	9.3%	77.9%	2.9%	0.1%	4.7%

8(1)は、修飾と被修飾との関係（連続する文節にある場合）について理解しているかをみる問題である。文節が隣り合っており、また体言を修飾していることから児童にとっては、比較的分かりやすい構造となっている。正答は「ウ」の「海を」で、77.9%の正答率である。誤答の中で最も反応率が高いのは、「イ」の「船が」で9.3%である。この誤答の要因としては、「船が青い」の部分だけに着目して、助詞「が」の付くものが正答であると捉えたことによるものと考えられる。

(2)


ア	イ	ウ	エ (正答)	その他	無解答
1.6%	48.5%	20.2%	24.6%	0.1%	5.0%

8(2)は、修飾と被修飾との関係（離れた文節にある場合）について理解しているかをみる問題である。また8(1)とは異なり用言を修飾している。正答は「エ」の「といた」で、24.6%の正答率である。誤答の中で最も反応率が高いのは、「イ」の「問題を」で48.5%である。この誤答の要因としては、「速く」と「正かくに」は、修飾と被修飾の関係ではないが、「速く」解いたものが「正かくに」解いた「問題」でもあるため、「速く」と「正かくに」の関係を修飾と被修飾の関係であると誤って捉えたことによるものと考えられる。

【授業改善のポイント】 修飾と被修飾の関係の理解を深める指導を工夫する。

修飾と被修飾の関係を正しく理解させるとともに、修飾されることにより語句の内容や特徴がより具体的に分かってくるというよさを実感させることが大切である。また、修飾と被修飾の関係は必ずしも連続した文節になっているとは限らないことを押さえた指導を行うことも大切である。

<指導事例>

修飾と被修飾の関係を学習した後、教材等に出てくる文を使って定着を図る。
例：こうへいくんは、青い小さなカバンに、友達から借りた赤い表紙の本をしっかりと詰め込んだ。
文の根幹には主語と述語があり、修飾する語句を加えていく過程を実感させる。
「こうへいくんは、詰め込んだ。」(提示)
<div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: flex-start;"> <div style="width: 80%;"> <p>①「何を詰め込んだのですか。」⇒こうへいくんは、本を詰め込んだ。</p> <p>②「どのような本ですか。」⇒こうへいくんは、友達から借りた赤い表紙の本を詰め込んだ。</p> <p>③「どこに詰め込んだのですか。」 ⇒こうへいくんは、友達から借りた赤い表紙の本をカバンに詰め込んだ。</p> <p>④「どのようなカバンですか。」 ⇒こうへいくんは、友達から借りた赤い表紙の本を青い小さなカバンに詰め込んだ。</p> <p>⑤「どのように詰め込んだのですか。」 ⇒こうへいくんは、友達から借りた赤い表紙の本を青い小さなカバンにしっかりと詰め込んだ。 ※修飾と被修飾の関係の部分を矢印や線で結び、視覚的にも分かるようにする。 ※修飾と被修飾の関係について適した他の部分も取り上げて、復習する。</p> </div> <div style="width: 15%; text-align: center; vertical-align: middle;">  </div> </div>